

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年12月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 15
4 対日動向	・ ・ ・ 17
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 24
6 軍事交流	・ ・ ・ 25
参考文献	・ ・ ・ 29

中国軍事動向月報：2025 年 12 月

2026. 1. 9

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

12 月は各部隊において年末検閲（原文：年終考核）が実施され、1 年の訓練の成果が確認された。

また、秋季徴兵隊員が新隊員教育を終了し各部隊に配置される一方、冬季退役隊員の退役行事が各部隊等で確認された。

中国海軍は 12 月初旬に 3 コ戦区海軍の編隊が太平洋等遠海に展開し活動。各戦区が連携していたかは不明であるが、連携していたとすれば、中央軍事委員会が統制したものであり、対台湾海上封鎖よりも遠海での接近阻止を焦点とした演習の可能性。空母遼寧編隊も日本近海で活動し、6 日には J-15 艦載機が空自 F-15 に対し、レーダー照射を実施した。対日牽制の他に、中国軍が戦備訓練を強化していることから、外国機・艦艇への対応基準を軍として硬化している可能性。更に反撃の可能性がないと想定している日本アセットに対してはより実戦的な対応をする等、国別に基準を変更している可能性もある。

東部戦区は 29～31 日の間、「台独分裂勢力と外部の干渉勢力への厳重な警告」を掲げ、陸・海・空・ロケット軍が参加する「正義使命-2025」統合演習を実施。これまでの統合演習時には放映が確認されなかった IRBM、MRBM が訓練報道で登場する等長距離打撃を重視している事、演習宣伝ポスターで米軍アセットや台湾への武器供与船の阻止が示唆されている事等から、米アセットに対する遠方からの接近阻止を重視して演練した可能性がある。トランプ米大統領の訪中を見据えた対米牽制の企図に加え、中国軍の長距離火力打撃アセットが年々増強されている証左とも言える。

南シナ海においては、フィリピン（以下、比）への強硬的な対応は継続。海上民兵船の比漁船への放水も確認され、海軍・海警・海上民兵が連携して活動していることが確認された。

2 各軍等

(1) 全 般

○ 2025 年全国血液管理工作会議¹

12 月 11 日、2025 年全国血液管理工作会議が開催され、国家衛生健康委員会、中国赤十字総会、中央軍事委員会後勤保障部衛生局が共同で全国無償献血協力団体・個人を表彰した。

軍では血液管理事業を進めており、組織・法整備・品質管理システム等を整備。軍病院が血液センターを設立し、各種の血液成分を含む全種類の血液の採取・検査・保管・輸送を実施。更に民間とも協力体制も確立。

○ 「兵役登録工作規定」の公布²

12 月 15 日、12 月 4 日付けの「兵役登録規則」が公布され、2026 年 1 月 1 日より施行されることが公表された。

同規定は、「中華人民共和国兵役法」の実施を推進するため、手続標準化・責任明確化・迅速効率的な兵役登録制度構築を目指したもの。初めて兵役及び予備役に登録する人員を対象とし、時期・内容・方法・関連要件等を詳細かつ明確に規定しており、国民が法に基づき兵役義務を履行し、正しく規則に基づいた兵役登録ができるよう保証している。

【コメント】

中国の兵役制度は兵役法に定める通り、「志願兵を主体とした志願・義務兵役を結合させた制度」であり、実質的には志願制となっている。

今回の「兵役登録工作規定」が単に業務の効率化を目的としたものか、兵役登録の対象者の拡大も含めたものなのかは現時点では不明であるが、戦時の迅速な動員体制確立を目的としていることには間違いなく、今後の運用、特に初めて兵役登録する対象人員の拡大の有無に注目する。

○ 上将昇任式³

12月22日、中央軍事委員会は上将昇任式を開催。今回昇任したのは以下の2名。

東部戦区司令官 楊志斌・空軍上将

中部戦区司令官 韓勝延・空軍上将

式典での記念撮影



前列左から

張升民中央軍委副主席

習近平中央軍委主席

張又俠中央軍委副主席

劉振立中央軍委委員・統合参謀長

後列左から

楊志斌・空軍上将

韓勝延・空軍上将

【コメント】

楊志斌・空軍上将は東部戦区副司令官から東部戦区司令官へ、韓勝延・空軍上将は中部戦区空軍司令官から中部戦区司令官に昇任した。

前東部戦区司令官・林向陽は10月に党籍剥奪処分を受けているが、前中部戦区司令官の王強についての動向は未確認。軍内の反腐敗闘争は継続しているものと見られる。

また、台湾侵攻を主担任とする東部戦区司令官に空軍出身者が上番するのは初確認。旧態依然とした陸軍の思想から脱皮し、新領域戦闘力の発揮を促す効果を狙った可能性がある。

(2) 統合訓練

統合後方支援体制の整備

12月15日付解放軍報は「軍は軍種一体化統合後方支援モデルの構築を加速」と題して統合後方支援体制の整備の必要性を訴える記事を以下のように掲載

(資料源：中国軍網20251215)

統合後方支援実動演習

- 冬季、朱日和訓練基地で陸海空ロケット軍の後方支援部隊が統合実員演習を実施
- 軍種の違う後方支援部隊が「統合後方支援情報システム」を使用し、要求・調整・管理・輸送・配布等の全データを共有
- 統一化されたプロセスにより、各軍種が協力し迅速かつ正確に補給を実施

統合後方支援の状況

- 統合後方支援に関する法規を整備、指揮系統・協同時の規則・職責権限等を規定
- コネクターを統一する等の後方支援装備の標準化・共有化・モジュール化を推進し、異軍種間での燃料・電力含む補給が可能
- 陸海空軍の類似機種ヘリを相互整備
- 東部戦区では、軍用飛行場を陸海空軍部隊が共同使用し、他軍種の軍用機整備が可能
- 戦区を越えた長距離機動演習では、異軍種が協同した輸送・燃料補給等を演練

- 中国軍は近年、戦時における物資の迅速補給や相互整備等の統合後方支援体制の整備を推進
- 台湾侵攻主担当の東部戦区では飛行場での異軍種相互支援の訓練を重視しており、飛行場の損害時や軍用機の緊急着陸等を見据えて戦時の支援体制を整備している可能性

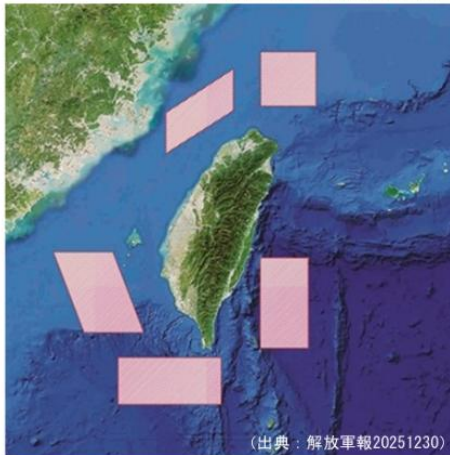
正義使命-2025統合演習：概要

中国側発表

- 12/29、東部戦区の陸・海・空・ロケット軍は「正義使命-2025」統合演習を開始
 - ◇ 場所：台湾周辺5カ所（図1）
 - ◇ 内容：海空戦備警戒パトロール、総合制権奪取、主要港・要域封鎖、外線立体阻止
 - ◇ 主旨：台独分裂勢力と外部の干渉勢力への厳重な警告
- 12/31、「演習任務を完遂し終了、部隊の統合作戦能力を全面的に検証」と公表

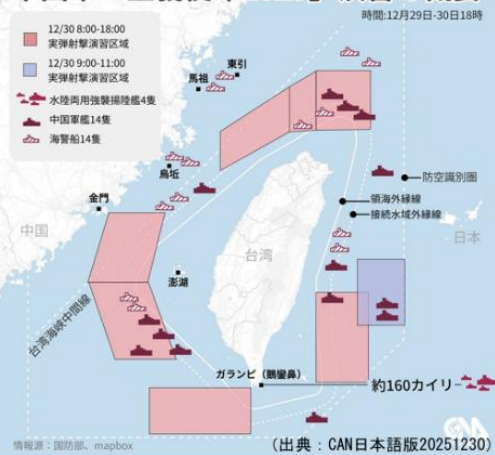
図1

12/30 0800～1800は海空域で実射含む演習



台湾側報道

中国軍「正義使命2025」演習の概要



正義使命-2025統合演習：ロケット軍

部隊が展開、全軍火力打撃システムの中で情報共有・火力配分等を行い、敵艦艇・重要軍事目標等に模擬波状攻撃を実施

DF-15B (SRBM)



DF-16 (SRBM)



DF-17 (MRBM)



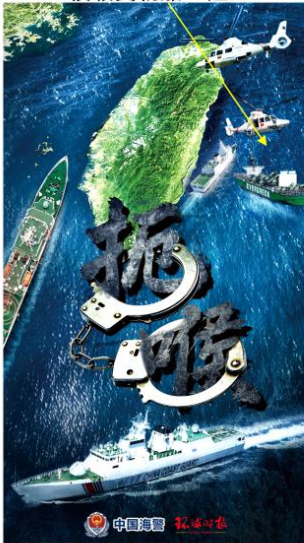
DF-26 (IRBM)



- 台湾へ指向するSRBMは統合演習報道で度々確認されているが、DF-17・26は初
- 第1列島線以東での対艦能力を有する弾道ミサイルも連携し接近阻止を演練した可能性

正義使命-2025統合演習：海警

HIMAR積載貨物船の阻止



東から逃亡する高速艇の阻止



翼竜-2無人機が登場



(出典：いずれも環球網20251231)

- 台湾東岸を重視し、無人機も利用した監視体制を演練とアピール
- 頼政権には海外での亡命政権樹立阻止を、米国には台湾への武器供与の停止を實力を以って実施するとの意思を表明

正義使命-2025統合演習：対米メッセージ

解放軍報「鈞声」（「軍の声」の意）20251230

- 米国は海峡情勢悪化に対し、逃れられない責任を有す
- 最新のNSSで「台湾海峡の現状を変更する如何なる一方的な行動も支持しない」と表明したにもかかわらず、関係格上げ・武器売却等実際の行動は異なる
- 米国に対し、台独勢力に武器供与しないよう忠告する

東部戦区演習ポスター

(出典：環球網20251229、黄字は筆者追記)



武器供与の状況

- 12/18、米は台湾へ111億ドル（過去最高額）の武器売却承認を発表
- 高機動ロケット砲HIMARS、長射程地对地ミサイルATACMS（最大射程300km）、アルティウス偵察攻撃無人機（飛行距離440km）等大陸を射程内におさめる装備を含む

- 演習ポスターで米供与の武器輸送船や米軍アセットを阻止する「正義の盾」をアピール
- トランプ米大統領の訪中も見据え、米アセットに対する接近阻止の演練を重視した可能性

(3) 陸軍

冬季の着上陸訓練

着上陸訓練参加実績のあるRORO船×2が、12/3～5、着上陸訓練場付近で活動



冬季にRORO船を使用した着上陸訓練は異例

⇒ 以下いずれかの可能性

- 冬季でも着上陸訓練を実施し、季節を問わず侵攻能力を強化
- 12月初旬の海軍の遠海訓練に連携したRORO船の展開訓練

(4) 海軍

空母遼寧の太平洋遠海訓練①

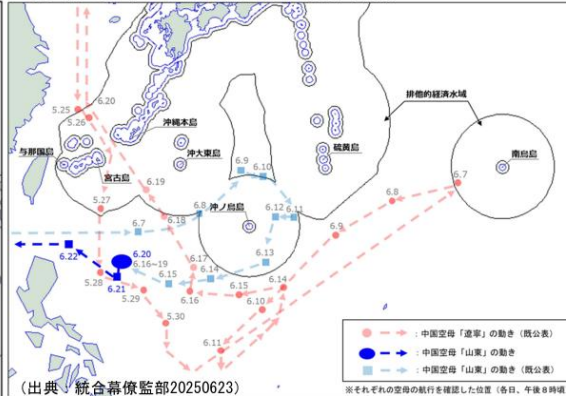
- 空母遼寧は12月6～12日までの間、西太平洋にて遠海訓練を実施
- 随伴艦：レンハイ級ミサイル駆逐艦×1、ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦×2
フュ級高速戦闘支援艦×1
- 発着艦（戦闘機＋ヘリ）：6～12日の7日間で約260回
- 6日にはJ-15艦載機が空自F-15に対し、レーダー照射を1632-1635、1837-1908の間断続的に実施

(資料源：防衛省20251207、統合幕僚監部20251212)

防衛省が公表した遼寧の航跡



【参考】6月の2コ空母編隊対抗訓練時の航跡



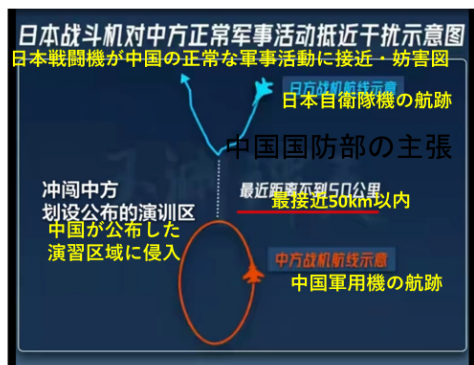
空母遼寧の太平洋遠海訓練②

中国国防部の主張

- 遼寧空母編隊は宮古海峡東方海域で遠海訓練実施、日本機が中国公表の訓練区域に侵入(12/7)
- 12/6、遼寧空母編隊の101艦が日側116艦に「艦載機の飛行訓練は15時から約6時間、空母の南方で主に実施」と通知し、日側は確実に受信した。このような状況下で日側が何度も航空機を中国の訓練海空域に侵入させ妨害、飛行の安全に危害を及ぼした一切の責任は日側にある(12/15)

(資料源：国防部網20251207, 1215)

中国軍公式SNSで公開した航跡図



過去の中国による自衛隊アセットへのレーダー照射の公表事例

時期	中国側	自衛隊側	概要
2013.1.19	ジャンカイ I フリゲート	護衛艦「おこなみ」の搭載ヘリ	東シナ海で火器管制レーダー照射の疑い
2023.1.30	ジャンウェイ II フリゲート	護衛艦「ゆうだち」	東シナ海で火器管制レーダー照射

- 空母はこれまでより南西諸島に接近した海域で訓練しており、高市発言に関連した対日牽制の可能性
- レーダー照射は、中国軍が戦備訓練を強化していることから、外国機・艦艇への対応基準を軍として硬化させている可能性。更に反撃の可能性がないと想定している日本アセットに対してはより実戦的な対応をする等、国別に基準を変更している可能性もあり

海軍の遠海訓練

12/3、豪のジョンストン国防軍司令官は上院委員会に対し、中国海軍の任務部隊が太平洋に向かっており、「パラオの北約500海里」に在ると証言。衛星画像によると、艦艇4隻はユーシェン級揚陸艦075LHD（31）、ルーヤンⅢ級駆逐艦052DD（106）、ジャンカイ級フリゲート054AFF、フチ級補給艦903AAOR（907）。

（Australian Broadcasting Corporation20251210）

12/3、海軍艦艇4コ編隊が西太平洋周辺海域で活動

（台湾国家安全局長談話 CNA20251205）

昨年12月の統合演習時には中国艦艇等が台湾周辺に多数展開したが、今回は特異な活動なし

12/4、海軍・海警90隻以上が公開～東シナ海～南シナ海と太平洋で活動

（ロイター報道 20251204）

12月6～12日までの間、防衛省は空母遼寧（随伴艦含めて編隊計5隻）を西太平洋にて確認

（統合幕僚監部20251212）

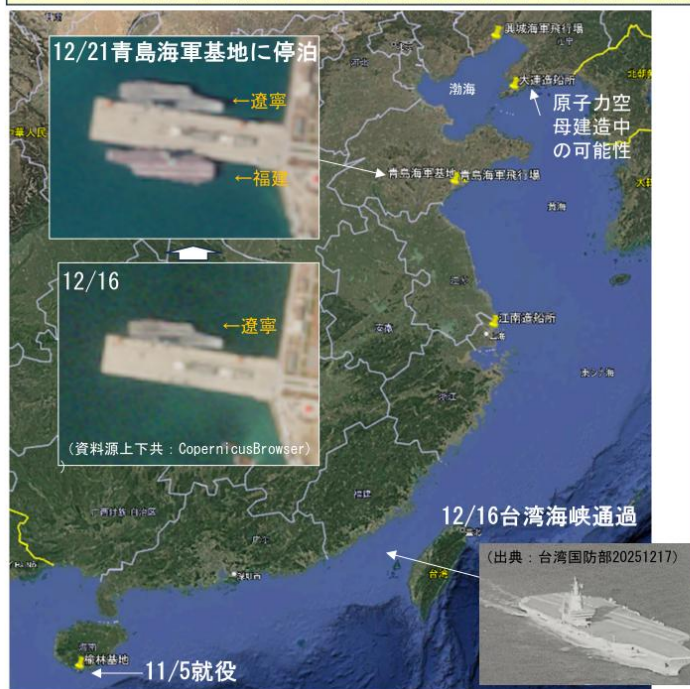


空母福建の状況

○ 台湾国防部は「12月16日、空母福建が台湾海峡を通過した」と公表。顧・台湾国防相は「甲板に艦載機が確認できないことから、上海長興島（注：福建を建造した江南造船所の所在地）で不具合の整備をするのではないかと表明

（<https://x.com/MoNDefense>、自由時報 20251217）

○ 12/21の衛星画像で空母福建の青島海軍基地停泊を確認



○ 江南造船所ではなく、青島海軍基地に入港したことから、整備ではなく訓練の可能性

○ 青島海軍基地近郊には青島海軍飛行場、北の渤海沿岸には興城海軍飛行場が存在し、今後艦載機の発着艦訓練を実施する可能性

○ 特に興城飛行場は空母艦載機の試験用飛行場であり、発着艦の試験や不具合発生時の対応には適。

また、渤海～黄海での活動は他国の監視アセットの接近を制限できるため、訓練初期段階では母港の榆林基地だけではなく、青島も利用して訓練を行う可能性

海軍沿岸ミサイル連隊の地下施設

12月22日、中国軍公式SNSは「彼らは地下施設に隠れた海岸国境の防衛線」と題した海軍沿岸ミサイル連隊の地下施設の状況について報道
(資料源：中国軍号20251222 <https://weibo.com/u/7739029497?wm=5>)

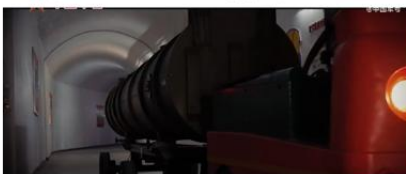
地下施設に整備員が入場



ミサイルキャニスターの整備



整備後のキャニスターを移動



キャニスターを輸送起立発射機 (TEL) に積載



地下施設からTELが出場



TELが発射パッドに移動



発射パッドでの展開



キャニスターを起立させ発射準備



沿岸からの対艦ミサイルの発射



- 画像から、ミサイルはYJ-62対艦巡航ミサイルで、中国網によれば、射程は450-550km、改良版は600-650km
- 海岸沿いに確認されている対艦ミサイル用発射パッド近隣には、それぞれ地下整備施設が存在し、発射前後の整備やミサイル本体の保管が可能になっている可能性

(4) 空軍

「攻撃-2 (GJ-2)」 UAVの実射試験

12月4日付のCCTV「砺剣」は「攻撃-2 (GJ-2)」偵察攻撃無人機の実射試験について報道

(資料源：央視新聞「砺剣」20251204 <https://tv.cctv.com/2025/12/04/VIDEcDp3AYWQRcAfBZe1CWxH251204.shtml>)

中国青年報が報じた諸元は右の通り

(資料源：中国青年報20181129)

	GJ-2
最高時速	370km/h
最高高度	9000m
最長飛行時間	20h (光学・赤外線偵察機搭載)
ハードポイント	6か所 (小型ミサイル12基搭載可能)

滑走路にてフライト準備



離陸



操作セル



無人機による目標偵察



目標への照準



目標への射撃



「双尾蝎」 UAVの実射試験

12月8日付のCCTV「军武零距离」は偵察攻撃無人機「双尾蝎」(TB-001)の実射試験について報道

(資料源：CCTV《军武零距离》坦克猎手20251208 <https://tv.cctv.com/2025/12/08/VIDENs5VifMbq8N5JQHLZxwg251208.shtml?spm=C52346.PAqPdYX587cN.EdNN02ac93CE.32>)

製造元の四川騰盾科創股份有限公司HPに紹介された諸元は右の通り

(資料源：<https://www.tengden.com/product/6.html>)

	双尾蝎	双尾蝎 A
最大離陸重量	2800kg	3600kg
最大飛行距離	6000km	8000km
最長飛行時間	35h	40h
最高高度	8000m	10000m

双尾蝎UAV



UAV搭載対地ミサイル



操作セル内



標的への照準・射撃



車両標的が大破



(出典：《军武零距离》20251208 坦克猎手)

「九天」 UAV初飛行に成功

12月11日付の新華社は「九天」の初飛行に成功と報道

- 九天は大型汎用無人機
- 大量の物資輸送・応急通信中継器・測図・地形調査等に活用可能
- 諸元

	九天
全長×翼長	16.35×25m
最大離陸重量	16トン
ペイロード	6000kg
移動航続距離	7000km
最長飛行時間	12h

(資料源：新華社20251211 <http://www.news.cn/politics/20251211/b427d80671d44f2fac97d877b6482dda/c.html>)

初飛行の状況



(出典：新華社12051211)

珠海エアショーでの展示



(出典：軍迷天下12051211)

九天からの小型無人機放出



(出典：軍迷天下12051211)

8か所のハードポイントに対空・対地・対艦・巡航ミサイル搭載可能

「彩虹-7 (CH-7)」 UAV初飛行に成功

12月15日付の央視軍事は彩虹-7の初飛行に成功と報道

- 彩虹-7は新型高度高速長時間滞空無人機
- 2024年中国エアショーにて初登場
- 光学・赤外線等の多種のセンサーを搭載

(資料源：央視新聞10251215 https://ysxw.cctv.cn/article.html?toc_style_id=feeds_default&item_id=17112982688959570422&channelId=1119)

珠海エアショーでの展示



	CH-7
翼長	26m
巡航速度	マッハ0.5
最高高度	15000m
作戦半径	2000km
最長飛行時間	16h
最大離陸重量	10トン

(資料源：中国新聞網20251217、澎湃新聞20251216、中国青年報20251216等)

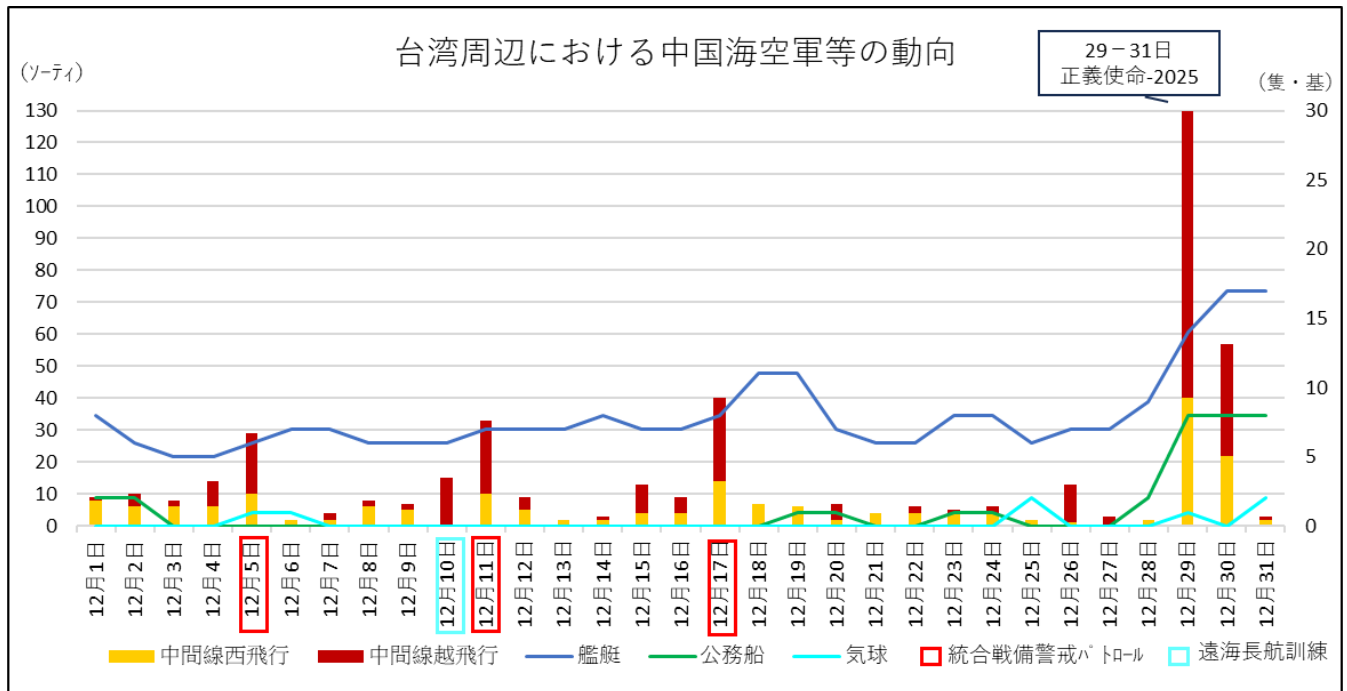
初飛行の状況



3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

12月是中国軍機延べソーティー486（内、中間線超えが延べ274）、中国艦艇延べ247隻、公務船延べ34隻、気球7基が確認された。

1日における軍用機最大確認数は130ソーティー、最大中間線超え90ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは3回であった。10日にはJ-16、H-6等による遠海長航訓練が実施された。

12月3日、台湾の蔡明彦国家安全局長が立法院外交・国防委員会で、「今年、台湾海峡を通過したのは米国、日本、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、英国、フランス計8か国の艦艇で、計12回（米と英、カナダとニュージーランドによる合同での航行含む）。中国軍は外国艦艇による台湾海峡の通過に対し「無条件で追跡」を基本原則としており、海空の兵力を動員して追跡、監視に当たり、模擬攻撃も行うことで台湾海峡における軍事的な存在感を示している」と説明した⁴。

【コメント】

29日の統合演習時に確認された軍用機130ソーティー、中間線超え90ソーティーは1日当たりのソーティー数としては2025年において最大であった。

統合戦備警戒パトロールでは3回共、H-6K爆撃機が参加した。これまでH-6爆撃機は遠海長航訓練には参加するものの、統合戦備警戒パトロール時には確認されていなかった。パトロール時でも台湾または台湾東海域への爆撃を想定したストライクパッケージを組んで常に爆撃できる態勢の常態化を企図している可能性があり、来月以降も継続するかに注目。

なお、統合戦備パトロールの名称については、台湾国防部は本年5月までは「統合戦備パトロールを実施」と表現していたが6月以降は「所謂統合戦備パトロールの名を装い、我の周辺海空域で騒擾」に変更した。しかし、12月5日の爆撃機を含めた活動でも「所謂統合戦備パトロールの名を装い、我の周辺海空域で騒擾」と同様の表現を使用しており、5月以前との差異は不明であるため、本レポートでは全て「統合戦備パトロール」として計上。

（2）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると12月11日、18日、22日、25日に各1回、計4回、中国海警が金門周辺台湾制限水域への入域し、約2時間航行し出域した。11・18・22日は海警船4隻、25日は3隻であった⁵。

一方、中国海警東海分局報道官は12月19日に「12月18日、福建海警は金門付近海域において法に基づく法執行パトロールを実施」⁶、25日に「この程、福建海警は金門付近海域において法に基づく法執行パトロールを実施」⁷と公表。

（3）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署による公表は確認されなかった。

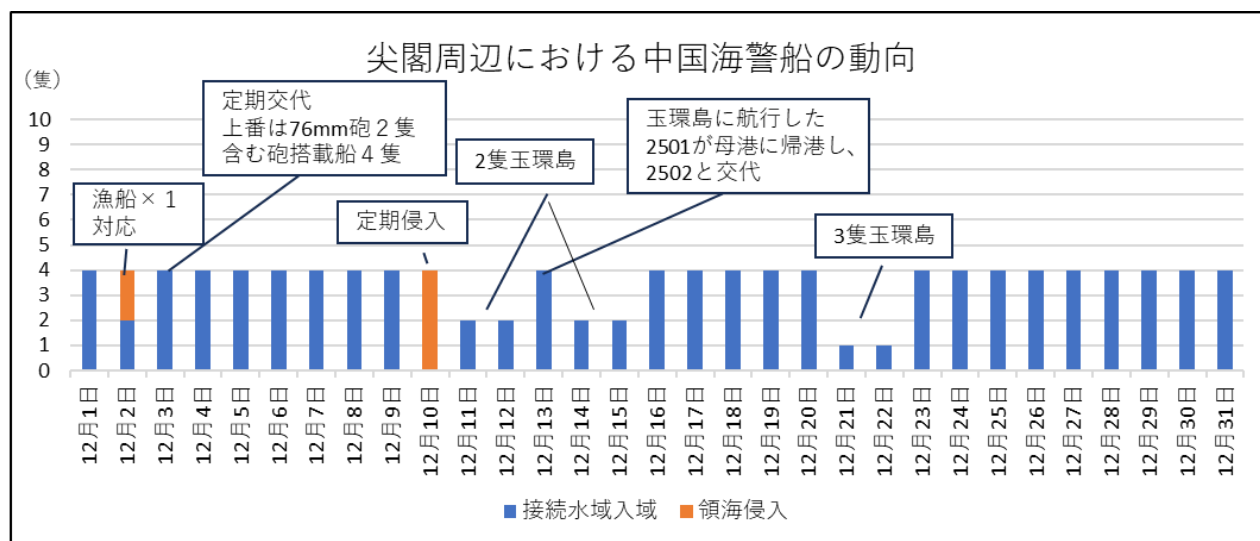
【コメント】

金門周辺制限海域への中国海警による進入は10月には確認されなかったが、11月には再開し、12月も継続した。25日は、3隻が一列になって航行する方式に変化した⁸が、25日は悪天候であったため隻数を減少させた可能性がある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

2025 年の海警船による尖閣接続水域内での活動は計 357 日となり、12 年の尖閣国有化以降、最多となった。

12 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。定期侵入は 1 回であった。

2 日に日本漁船 1 隻に対応した領海侵入を行った。これに関し、中国海警局報道官は 2 日、「日本漁船瑞宝丸が我が釣魚島（注：原文ママ）領海に侵入し、中国海警は法に基づき必要な措置を講じ警告駆逐した」と公表⁸。

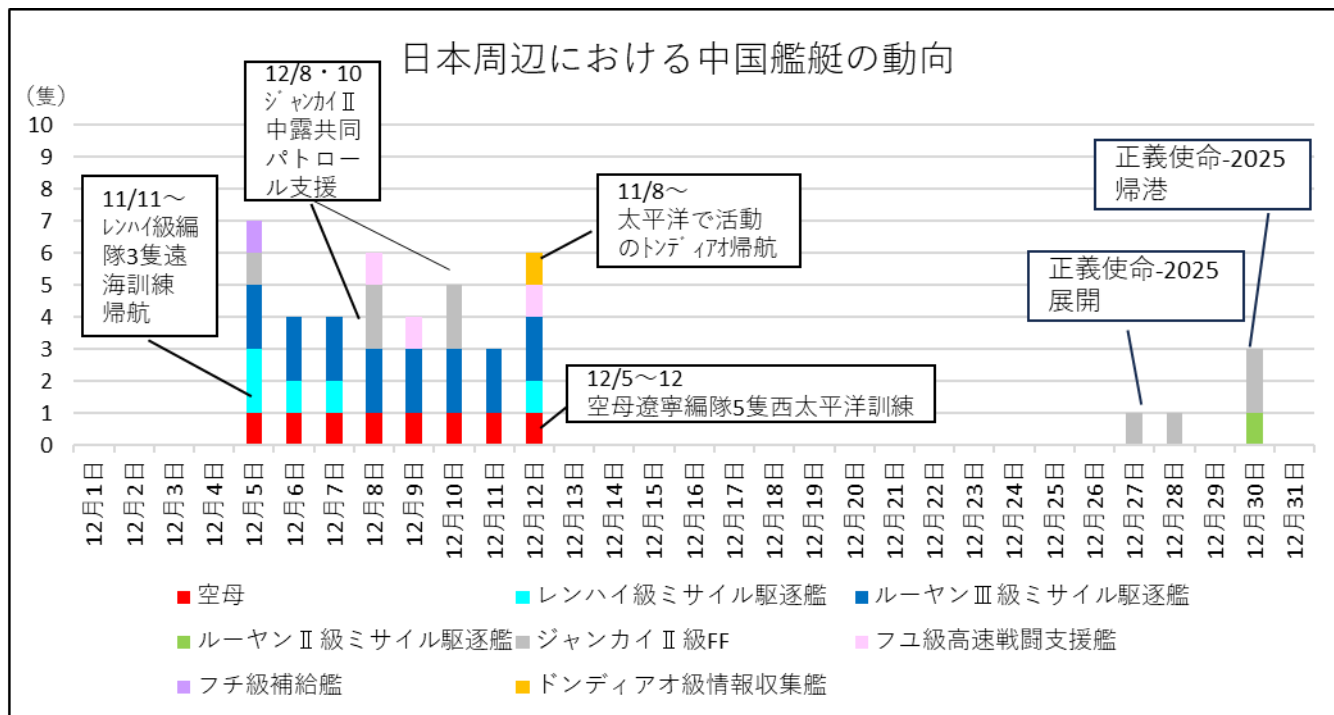
海警船は通常 1 か月の上番中、補給整備等のため 2 隻ずつ玉環島基地に寄港するが、12 月は 11 日に 2302 と共に玉環島に寄港した 2501 がその後母港の舟山へと帰港した。13 日以降は 2502 が交代して尖閣周辺で活動した。2501 の船体か隊員に不具合があった可能性がある。

21、22 日に 2301、2302、2303 は上番間に 2 度目の玉環島基地への寄港を行った。両日の天候は与那国島の最大瞬間風速 17～19m で悪天候ではあったが、最大瞬間風速 20m を越えた 3 日、25 日でも 4 隻で活動していることから天候以外の理由が考えられる。

途中交代した 2501 の交代理由が不具合であった場合は他の船舶又は隊員に対する玉環島で追加の整備や検査等する必要があった可能性が、そうでなければ 29 日から実施された統合演習の事前調整を玉環島で行った可能性がある。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 44 隻の活動が確認された。

12 月 7 日、防衛省は空母遼寧の活動に関し、以下のように公表⁹。

「第一に、本年 12 月 6 日（土）16 時 32 分頃から 16 時 35 分頃までの間に、沖縄本島南東の公海上空で、中国海軍の空母「遼寧」から発艦した J-15 戦闘機が、当該機体に対する対領空侵犯措置を実施していた航空自衛隊の F-15 戦闘機に対して、レーダー照射を断続的に行う事案が発生した。

第二に、同日 18 時 37 分頃から 19 時 08 分頃までの間に、沖縄本島南東の公海上空で、中国海軍の空母「遼寧」から発艦した J-15 戦闘機が、当該機体に対する対領空侵犯措置を実施していた上記とは別の航空自衛隊の F-15 戦闘機に対して、レーダー照射を断続的に行う事案が発生した。

今回のレーダー照射は、航空機の安全な飛行に必要な範囲を超える危険な行為であり、このような事案が発生したことは極めて遺憾であり、中国側には強く抗議し、再発防止を厳重に申し入れた。なお、自衛隊機及び隊員に被害はない。」

これに対し、中国側は以下のように公表¹⁰。

◇ 国防部報道官の記者質問への回答 20251207

「遼寧空母編隊は、宮古海峡東方海域で遠海訓練を実施しており、国際法と国際慣行に合致したものだ。しかし、日本は中国の行動を悪意を持って監視・妨害し、中国が設定・公表した訓練区域に航空機を繰り返し侵入させた上に、中国の正常な行動に対し虚偽の非難まで行おうとは、盗人猛々しいにも程がある。我々は、日本の挑発行為と間違った世論誘導に強烈な不満と断固たる反

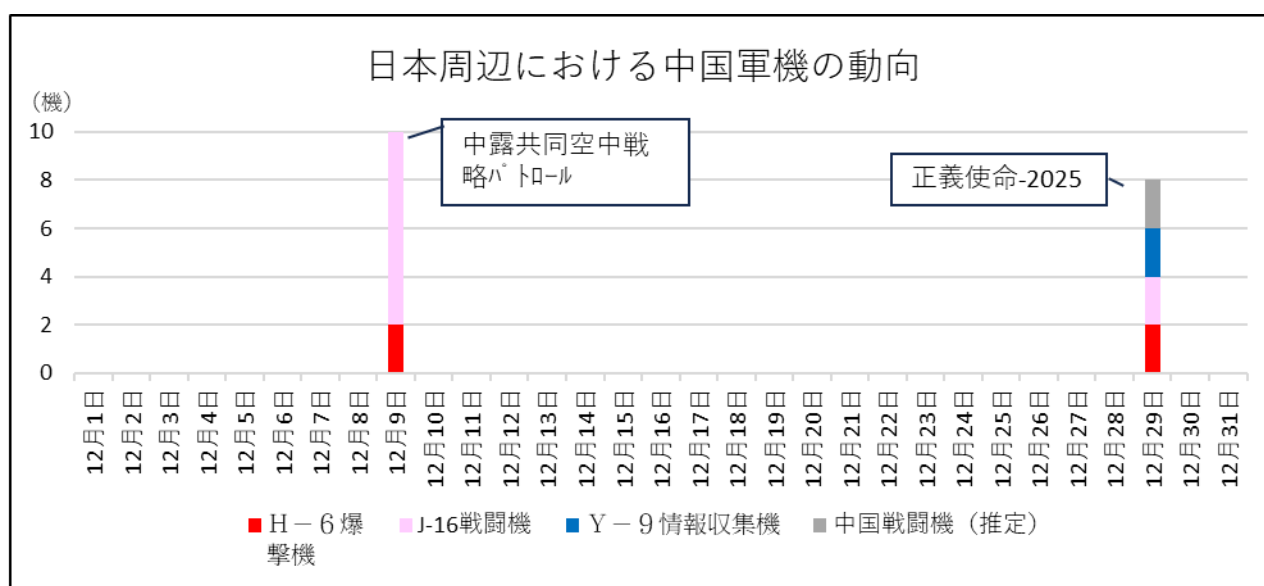
対を表明する。」

◇ 海軍報道官の表明 20251207

「先日、遼寧空母編隊は、宮古海峡東方海域において、事前に訓練海空域を公表し、通常の艦載戦闘機の飛行訓練を実施した。この間、自衛隊機が訓練海空域に繰り返し接近・妨害し、正常な訓練に重大な影響を及ぼし、飛行の安全を大いに脅かした。

日本のこの件で騒ぎ立てていることは、事実とは全く異なる。我々は日本に対し、誹謗中傷を直ちに停止し、第1線での行動を厳格に取り締まるよう、厳正に要求する。」

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 18 機の活動が確認された。

防衛省は 9 日、「12 月 9 日 (火) 午前から午後にかけて、日本海から東シナ海に進出したロシアの爆撃機 (Tu-95) × 2 機が、東シナ海において中国の爆撃機 (H-6) × 2 機と合流した後、東シナ海から四国沖の太平洋にかけて長距離にわたる共同飛行を実施したことを確認した。また、当該爆撃機が沖縄本島と宮古島との間を往復して飛行する際、中国の戦闘機 (J-16) × 4 機が合流したことを確認した。この他、日本海においてロシアの早期警戒管制機 (A-50) × 1 機、ロシアの戦闘機 (Su-30) × 2 機を確認した。」と公表¹¹。細部は「6 軍事交流 (1) 共同訓練」の項参照

29 日、東部戦区統合訓練「正義使命-2025」に参加した爆撃機編隊が沖縄本島と宮古島との間を通過して太平洋に進出した後、再び沖縄本島と宮古島との間を通過し、東シナ海に戻った。細部は「2 各軍等 (2) 統合訓練」の項参照

11 月は台湾周辺戦備警戒パトロールや遠海長航訓練に関連した無人機が確認されたが、12 月は関連無人機等は日本 ADIZ にまで接近しなかった。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

- もし日本が歴史の過ちを繰り返すなら必ず徹底した清算を受ける¹² 范永強 解放軍報 20251202

台湾は古来より中国の神聖な領土であり、その解決は中国の内政問題であり、いかなる外部勢力の干渉も許されない。もし日本が高市早苗の挑発的な発言を実行に移せば、必然的に「敵国条項」が発動され、断固たる報復を招くことになる。

- 与那国へのミサイル配備を計画¹³ 解放軍報 20251204

日本は与那国への 03 式中距離地对空ミサイル配備を推進しているが、近年琉球群島（注：原文ママ）に継続して軍事基地を開設し、攻撃的武器を配備し、軍拡の野心を露わにしている。

- 国防部定例記者会見日本関連質問への回答¹⁴ 20251205

- ◇ 日本の補正予算中の防衛支出やミサイル輸出について

近年日本が大幅に防衛予算を増加させ、殺傷性兵器を輸出しようとしており、軍国主義が復活しようとしている。我々は日本が厳格に国際法が規定した敗戦国の義務を遵守するよう要求する。

- ◇ 先日発行した「新時代の中国の軍備管理・軍縮・不拡散」白書で、日本に早期の遺棄化学兵器処理を求めている件について

日本は遺棄化学兵器を、安全かつ完全徹底的に、早期に処理すべきであったが、度重なる消極的でいい加減な対応により、処理全体に重大な遅延を招いている。遺棄化学兵器の無毒化は、日本が負う避けられない歴史的、政治的、法的責任であり、化学兵器禁止条約に定められた国際的な義務である。

- 日本の防衛支出増額は拡張の野心の現れ¹⁵ 朱曉琦 解放軍報 20251207

今年の日本の防衛支出は既に GDP2%に達しており、高市首相の下、軍備拡張を加速させている。日本が頑固なまま誤った道を進み続けるならば、大きな代償を払うことになり、歴史と正義の審判から逃れることはできないだろう。

- 歴史に逆行すれば、必ず反撃にあうであろう¹⁶ 許怡真 解放軍報 20251208

高市首相の挑発的な台湾に関する発言以降、日本政府は相次いで時代に逆行した行為を採っている。このような歴史に学校する挑発的な行為はついには自身に跳ね返ってくる。

- 日本がレーダー照射を騒ぎ立てるのは、悪意を持った善悪の逆転¹⁷ 古劍 解放軍報 20251209

日本がレーダー照射で中国を悪に仕立て国際社会をミスリードしようとする理由は、軍拡への理由付けと、高市首相発言が招いた惨事から目を逸らさせるためだ。

- 日本の軍事制限緩和の加速を警戒¹⁸ 中国国際問題研究院アジア太平洋研究所 項昊宇 解

放軍報 20251211

高市首相の台湾に関する全く誤った発言は、中国から強い反発を招いた。しかし、各方面からの強い懸念と厳しい批判に直面しながらも、日本政府は反省し、悔い改めるどころか、態度を悪化させ、間違いを繰り返している。

○ 制御不能な投資と危険な拡張¹⁹ 王偉安 解放軍報 20251211

日本は予定より 2 年前倒しで防衛費 GDP2%という目標を達成し、日本の軍事力の急速な拡張が拡大の新たな加速期に入ったことを示した。

○ 歴史の悲劇を繰り返すことは決して許さない²⁰ 許怡真 解放軍報 20251212

12 月 13 日は、12 回目の南京大虐殺犠牲者追悼記念日である。年に一度の国家追悼記念日は、歴史的悲劇の繰り返しを決して許してはならないとの警鐘を我々の心に鳴らすものとなっている。

○ 日本の軍国主義の復活を警戒²¹ 葛聖軍 海軍指揮学院 解放軍報 20251213

第 12 回南京大虐殺犠牲者追悼記念日に、凄惨な警報が再び全国に響き渡る。

全将兵は、目標を定め、精励努力し、全精力を戦闘に集中し、全労力を戦闘に捧げ、正義のため、平和のため、そして人民のために常に戦う準備をし、日本軍国主義が再び台頭することを決して許さないようにしなければならない。

○ 歴史は変えられず、罪は逃れられず²² 陶賦雯 解放軍報 20251213

高市首相による台湾に関する誤った発言は、当時の日本軍国主義が「生命線」と「存亡の危機」を口実に侵略戦争を開始した不条理な論理と酷似している。一部の日本国民が彼女の発言に盲目的に支持を表明していることは、日本軍国主義が復活する十分な土壌があることを示している。これらはすべて、歴史修正主義が長期にわたり蔓延してきた結果であり、国際社会は強く警戒すべきである。

○ 南京大虐殺犠牲者追悼記念日に関する質問への国防部報道官の回答²³ 国防部定例記者会見 202512125

今年は、中国人民抗日戦争勝利・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年であり、南京大虐殺 88 周年である。1937 年 12 月 13 日、日本軍は南京に侵攻し、30 万人の同胞を虐殺した。日本は、中国を含むアジア諸国の人々に対して犯した数々の犯罪行為を深く反省し、侵略の歴史を歪曲し、美化するあらゆる誤った行為をやめるべき。

○ 日本の武器輸出解禁は戦後国際秩序の大破壊²⁴ 許怡真 解放軍報 20251217

12 月 15 日に自由民主党と維新の会は、「防衛装備移転三原則」の運用指針を見直し、5 類型撤廃することで合意。この危険な動きは、日本国内で広範な懸念と批判を引き起こしており、「平和憲法」から著しく逸脱し、戦後国際秩序を著しく破壊し、地域および世界の平和と安定に

対する深刻な脅威となっている。

○ 日本の宇宙軍事化加速を警戒²⁵ 航天工程大学宇宙安全研究センター 王晓艳 丰松江
解放軍報 20251218

先頃、航空自衛隊基地を視察した小泉進次郎防衛大臣は、「宇宙は軍事・民生両面において極めて重要な領域である」と発言した。この発言の背後には、「自主防衛」を名目に宇宙の軍事化を加速させようとする政府の危険な企みがある。

○ 日本の国家情報局設立の目的は²⁶ 付紅紅 解放軍報 20251218

先頃、日本政府が2026年7月に国家情報局を設立する計画であることが明らかになった。日本のこの動きは、非核三原則の見直しや殺傷兵器輸出の促進といった試みと本質的に一致しており、戦後の「専守防衛」という制約を打破しようとする野心をさらに露呈した。

○ 重要な問題でじわじわと迫る、日本の邪心が明らかに²⁷ 楚一鳴 解放軍報 20251219

12月15日、茂木敏充外務大臣は参議院本会議において、日中共同宣言における台湾問題に関する一部条項を繰り返し述べたものの、「日本国政府は、中華人民共和国政府を中国の唯一の合法政府として承認する」や「台湾は中華人民共和国の領土の不可分の一部である」といった共同宣言の重要な部分には改めて言及しなかった。カイロ宣言の条項を引用する際には、中国東北部・台湾・澎湖諸島にのみ言及し、「日本が中国から窃取した領土」という重要な記述を意図的に避けた。また、日中共同宣言をいわゆる「サンフランシスコ平和条約」と同列にし、既存の国際法上の原則に反し、「台湾の地位未確定論」を復活させようとした。日本の最近の一連の発言は、重要な問題に関してじわじわと迫ろうとするもので、実は日本が邪心を捨てておらず、ごまかしてその場逃れをしようとするものである。

○ 日本の歴史修正主義は正義と良識への凌辱²⁸ 徐琳 解放軍報 20251222

日本のいくつかの平和祈念館は「南京大虐殺」を「南京事件」としたり、戦争開始を1941年12月8日としてそれ以前の中国侵略の10年間を抹消したりと、日本の侵略の歴史と戦争の真実を矮小化しようとしている。現在、日本の加害の歴史を体系的・客観的に展示する記念館等はほとんどない。

○ 歴史の改竄には悪意が潜み、軍拡と戦争への野心が暴露²⁹ 盧響 解放軍報 20251224

憂慮すべきことに、日本の国内政治がますます右傾化するにつれ、軍国主義的な歴史を美化するこうした歴史修正主義的な言論は抑制されないどころか、むしろ激化し、日本の若い世代を深刻な誤解に導いている。日本右翼勢力による誤った誘導が続く中で、日本国民の戦争認識は著しく歪められている。NHKの世論調査によると、「先の大戦は日本がアジア隣国に対して発動した侵略戦争」という意見に賛同する回答者はわずか35%で、1994年の同様の調査では52%だった。さらに、「わからない」と回答した人は48%にも上り（1994年の調査では15%）、歴史認識の揺らぎと後退は衝撃的である。

○ 国防定例記者会見日本関連質問への回答³⁰ 20251225

◇ 日本の原潜保有議論等について

近年、日本は「再軍備」の推進に躍起になり、軍備拡張の道を突き進み、軍国主義復活の兆しが顕著になってきている。

◇ 日本の平和祈念館の展示について

日本に、事実を隠蔽し、世界を欺くのではなく、真摯に謝罪し、罪を認め、償わなければアジアの隣国と国際社会の信頼を得ることができないとご忠告する。

◇ 日本の宇宙政策について

日本軍国主義のこれまで陰險な策略と裏切りの歴史を考えると、現在の積極的な宇宙政策によって「宇宙の真珠湾攻撃」が再び起こるのではないかと懸念されるのも無理はない。

◇ 日本の防衛予算について

ポツダム宣言は、日本の軍国主義とその土壌を永久に、徹底的に根絶しなければならないと明確に規定した。日本の交戦権を政治的かつ法的に制限し、思想から日本の戦争の根源を排除することによってのみ、平和、安全、そして正義の新たな秩序を確立することができる。日本は完全に軍備を放棄し、再軍備を可能にするいかなる産業も維持してはならない。

◇ 日本の南シナ海での活動について

日本は南シナ海問題の当事国ではなく、中国の西沙諸島と南沙諸島を占領してきた汚点がある。日本がすべきことは、自らの行動を反省することであり、南シナ海で騒動を煽り、対立を誘発し、地域の平和と安定を破壊する事ではない。

◇ 萩生田自民党幹事長代行の訪台について

日本は二度と過ちを繰り返さず、「一つの中国」原則と中日四つの政治文書の精神を真摯に遵守し、台湾に関する誤った言動を直ちにやめるよう促す。

○ 日本の核兵器への切望は、戦後の国際秩序に対する公然たる挑発³¹ 徐永智 中国現代国際関係 研究院 解放軍報 20251227

先頃の高市首相の原潜関連発言や、官邸高官の核保有関連発言のような危険な言論が続出するのは決して偶然ではない。近年の日本右翼の核保有論等は非核三原則への重大な離反であり、戦後国際秩序や核不拡散体制への公然たる挑発のみならず、地域ひいては世界全体の平和と安定への威嚇である。

【コメント】

先月に引き続き、高市首相の発言等を非難する論調を繰り返し広げた。解放軍報で取り上げる回数は11月12回、12月16回と増加したが、解放軍報のいわゆる社説のペンネーム「鈞声」の署名入り文章は先月の3回から0回になった。軍の公式見解に変化はなく、11月に表明した路線に従って非難キャンペーンを継続するという姿勢であろう。

5 南シナ海動向

○ スカボロー礁

- ◇ 12月12日、南部戦区報道官は、「最近、比小型航空機が多数、中国政府の許可を得ずにスカボロー礁の中国領空に不法侵入した。南部戦区は海空軍をもって、法規に基づき追跡・監視し、嚴重に警告し、駆逐した。」と公表³²。
- ◇ 12月31日、中国海警局は「31日、海警はスカボロー礁領海と周辺区域において法執行パトロールを実施した」と公表³³。
- ◇ 12月31日、南部戦区は「12月以来、南部戦区は海空戦力により、スカボロー礁領海領空及び周辺区域の戦備警戒パトロールを引き続き強化」と公表³⁴。

○ サビナ礁

12月12日、中国海警局報道官は、「12月12日、多くの比船舶が漁業旗を掲げ、中国海警局の再三の警告を無視し、サビナ礁海域で騒動を起こし、挑発した。海警局は法規に基づき、比船舶に対し警告・駆逐など必要な取締措置を講じた。」と公表³⁵。

海上民兵船による比漁船への放水

比沿岸警備隊報道官はXにて南シナ海での中国海警等の状況について以下のように表明

○ 12月6日の投稿

- ◇ 6日、比沿岸警備隊と漁業水産資源局が定期的な海洋状況把握（MDA）を実施
- ◇ 比EEZ内に中国の海上民兵船×101、海警船×2、海軍艦艇×2を確認
- ◇ スピ礁付近で漁業水産資源局の航空機が同礁から3発のフレア発射を受けた

○ 12月12日の投稿

- ◇ 12日、サビナ礁付近で操業していた約20隻の比漁船が中国海警からのアンカーライン切断等や中国海上民兵からの放水等の危険な妨害行為を受けた
- ◇ 比漁民3名が負傷、漁船2隻が重大な損傷
- ◇ 救助に向かった比沿岸警備隊船舶も中国海警から危険な妨害行為に遭遇

（資料源：<https://x.com/jaytaryela/status/1999713381255897283>）

比漁船に放水する中国海上民兵船



船名は「琼三沙漁00122」または「琼三沙漁00123」



（出典左右共：x.com/jaytaryela/20251216）

- 中国は比の漁業活動や海上監視に対し、実力阻止を伴う強硬な態度を継続
- 放水した中国船「琼三沙漁」は海南省三沙市の国有漁業企業に所属する海上民兵漁船であり、海域の広い南シナ海では海警と共に他国漁船の排除に従事

6 軍事交流

(1) 軍事交流

○ ベトナム海軍艦艇の青島寄港³⁶

12月1日、ベトナム海軍ゲバルト級フリゲート艦「陳興道」が青島の軍港に寄港、4日間の交流活動を開始した。

○ 米中文書協力業務オンライン会議³⁷

12月10日、米中両軍は文書協力業務オンライン会議（原文：档案合作工作视频会议）を開催し、2026年の協力計画に基本合意し、米による抗日戦争以後の中国での米軍行方不明者の遺骨調査に引き続き協力することとなった。

○ 米中防衛政策調整協議

12月15～16日、ワシントン D.C.で第19回米中防衛政策調整協議が開催。スミス米国防次官補と葉江中央軍事委員会国際軍事合作弁公室副主任（少将）が会談した。

スミス次官補は、戦略的安定、そしてより広範な危機の衝突回避とエスカレーション緩和を支援することを目的として、人民解放軍とのより広範な軍同士のコミュニケーションを国防省が支持していることを改めて強調した。また、スミス次官補は、インド太平洋地域における米国の利益は重要であるものの、その範囲は限定的かつ合理的であり、米国防省はそれを守る用意があることを改めて強調した³⁸。

この協議に関し、中国国防省報道官は25日記者会見で、「中米軍関係の発展において、我々は確固たる原則を堅持する。中国の主権、尊厳、そして核心的利益は侵すことのできないものである。米国は中国との対話と交流を主張しながら、同時に中国の主権と安全を損なっている。」と述べた³⁹。

(2) 共同訓練

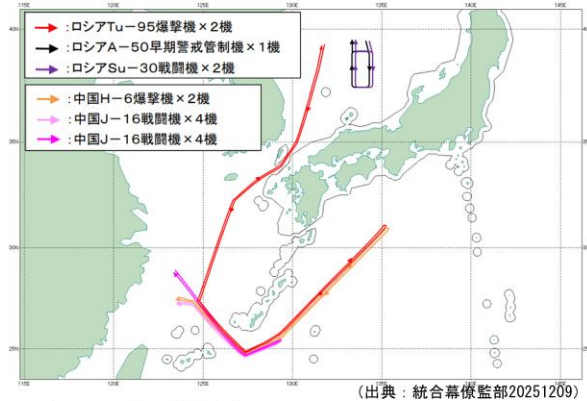
ア 中露共同訓練

○ 中露共同空中戦略パトロール

中露共同空中戦略パトロール

中国国防部は12月9日、「9日、中露は年度の協力計画に基づき、東シナ海・太平洋西部空域で第10回共同空中戦略パトロールを実施」と公表
(資料源：中国軍網20251209)

防衛省が公表した中露軍用機の航跡



パトロール中の中露爆撃機



防衛省が公表した以外の中国参加機
(出典：いずれも環球網20251210)



参考：中露共同空中戦略パトロール

	場所	内容等
2019	日本海・東シナ海	中露爆撃機各2機による混合編隊
2020	日本海・東シナ海・太平洋	○ 太平洋へ初進出 ○ 中国爆撃機4機
2021	日本海・東シナ海・太平洋	中国機が露国内に着陸
2022	日本海・東シナ海・太平洋	情報収集機（露）初参加
	日本海・東シナ海・太平洋	中露が相手国に相互着陸、戦闘機（中）初参加
2023	日本海・東シナ海・太平洋	初の2日連続実施
	日本海・東シナ海	電子戦機（中）・哨戒機（露）初参加
2024	チュコト海・ベーリング海	太平洋北部へ初進出
	日本海・東シナ海・太平洋	空中給油機（中）・情報収集機（中）初参加
2025	東シナ海・太平洋西部	○ 四国沖まで北上したのは初 ○ 中国機の日本海での飛行はなし ○ 近年は年2回実施していたが、1回のみ ⇒ 露がウクライナ戦争で余力がない中、中国の対日牽制に協力した可能性

○ 中露第3回ミサイル防衛共同演習⁴⁰

12月上旬、中露両軍は露国内において第3回ミサイル対処共同演習を実施した。

【コメント】

先月の11月20日には、張又俠・中央軍委副主席が訪露し、ペロウソフ露国防相と会談。12月2日には王毅・中央外事工作委員会弁公室主任も訪露しショイグ露安全保障会議書記と第20回中露戦略安全保障協議を開催した。

中露ミサイル防衛共同演習は、2016年5月26～28日に露で、2017年12月11～16日に中国で実施しており、8年振り。ミサイル対処演習には早期警戒に関するハイレベルの情報共有や米核戦力に対する戦略調整等が含まれると見られ、軍・外交担当のトップがそれぞれ訪露し、協力指針を確認した可能性がある。

空中戦略パトロールは2022年以降は年2回実施していたが、今年は1回であった。ロシア側がウクライナ侵攻により航空戦力が制限されているためと思われる。今回は共同空中戦略パトロールとしては初めて四国沖まで進出した。中国の日本への牽制にロシアが付き合った形であろう。

参考：中露軍事協力

- 2003年：SCO（上海協力機構）の枠組みで初の多国籍対テロ共同演習
- 2012年：初の中露二国間共同演習
- 2019年：初の共同パトロール

年	事象	共同演習			共同パトロール		
		海上	戦略演習	ミサイル防衛 (CPX等)	海上	空中	海警
2012	習中央軍委主席就任 プーチン大統領復帰	○					
2013		○					
2014	露のクリミア「併合」	○					
2015		◎					
2016	南シ海裁判で中国違法判決	○		○露			
2017		◎		○中			
2018			○露				
2019	香港デモ活発化	○	○露			○	
2020	COVID-19世界的蔓延		○露			○	
2021		○	○中		○	○	
2022	露のウクライナ侵攻	○	○露		○	◎	
2023			○中		○	◎	
2024		○	◎中・露		◎	◎	○
2025		○		○露	○ 潜水艦初参加	○	

注：○は1回、◎は2回実施

12

イ その他の共同訓練

○ 中国・パキスタン、共同対テロ演習「勇士-9」⁴¹

11月下旬から12月14日にかけてパキスタンにおいて、中国人民解放軍西部戦区とパキスタン陸軍は、「共同対テロ掃討・打撃作戦」をテーマとする共同対テロ演習「勇士-9」を実施。

12月2～6日には、パビイ（注：音訳）国家対テロ訓練センターで混成部隊による訓練を実施。

○ 中国・UAE 共同空軍訓練「獵鷹盾牌-2025」⁴²

12月9～22日、UAEで「獵鷹盾牌（イーグルシールド）-2025」共同空軍演習を実施。同シリーズとしては3回目。

○ 中国・シンガポール陸軍共同訓練「合作-2025」⁴³

12月9～17日、12月8日、中国・シンガポール陸軍共同訓練「合作-2025」がシンガポールで実施。8日、訓練参加の第74集団軍某旅団から抽出された部隊が、Y-20輸送機でシンガポール・チャンギ空軍基地に到着。

「合作」シリーズとしては7回目の訓練。2023年から3年を1周期として1テーマを訓練しており、今年は最終年度。都市における対テロ共同作戦をテーマに今年は旅団級のCPXと大隊級の実動演習を実施。

【参考文献】

- 1 中国軍網 20251212
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251212/9bea13b7f439344f9056062c4c00bacf.pdf>
- 2 中国軍網 20251215
http://www.81.cn/yw_208727/16427267.html
- 3 中国軍網 20251222
<http://www.81.cn/jwtt/16428619.html>
- 4 フォーカス台湾 20251203
<https://japan.focustaiwan.tw/politics/202512030004>
- 5 海洋委員会海巡署 20251211、20251219、20251222、20251225
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166576&ctNode=650&mp=999>
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166589&ctNode=650&mp=999>
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166617&ctNode=650&mp=999>
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166626&ctNode=650&mp=999>
- 6 中国海警局 20251219
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202512/t20251219_2902.html
- 7 中国海警局 20251225
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202512/t20251225_2908.html
- 8 中国海警局 20251202
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202512/t20251202_2881.html
- 9 防衛省 20251207
<https://www.mod.go.jp/j/press/news/2025/12/6a.html>
- 10 解放軍報 20251208
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251208/f4b41ec590de4fd5e48d9e4a94e1dbbb.pdf>
- 11 統合幕僚監部 20251209
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2025/p20251209_05.pdf
- 12 解放軍報 20251202
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251202/024e5f0360c695be3fe851e11c387267.pdf>
- 13 解放軍報 20251204
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251204/409e91cb781a259b8df6c8a943fcd9b9.pdf>
- 14 国防部網 20251205
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16425476.html>
- 15 解放軍報 20251207
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251207/2d516a521fd680c85e315ce5f55d5639.pdf>
- 16 解放軍報 20251208
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251208/f4b41ec590de4fd5e48d9e4a94e1dbbb.pdf>
- 17 解放軍報 20251209
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251209/ee6db6e5dbf95a0419ca855638bc9e87.pdf>

18 解放軍報 20251211
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251211/0e361add1097b98c8b3f48a7985b1d47.pdf>

19 解放軍報 20251211
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251211/0e361add1097b98c8b3f48a7985b1d47.pdf>

20 解放軍報 20251212
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251212/009fda0c324bd8fb8d4f87dc62c13798.pdf>

21 解放軍報 20251213
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251213/7c1e98ce080fbfc7d745750554e2fc86.pdf>

22 解放軍報 20251213
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251213/19deb7ee725e6cc2d96a66717d2f84ea.pdf>

23 中国軍網 20251215
http://www.81.cn/yw_208727/16427191.html

24 解放軍報 20251217
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251217/cf90abc0c5e88d75c7743c41ae45183e.pdf>

25 解放軍報 20251218
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251218/0cde15fee5b54ab5a523921b6f92c0e6.pdf>

26 解放軍報 20251218
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251218/0cde15fee5b54ab5a523921b6f92c0e6.pdf>

27 解放軍報 20251219
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251219/58b7f7d35136f8110d87353158a930ad.pdf>

28 解放軍報 20251222
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251222/8b710f631e823e99e3126dfc64eb15a4.pdf>

29 解放軍報 20251224
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251224/d4e0db2ee46258aeaa876b3d750e9a55.pdf>

30 国防部網 20251225
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16429143.html>

31 解放軍報 20251227
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251227/e342029c13ca7ca7cd8deb574a8e82c5.pdf>

32 南部戰区微信 25251212
<https://mp.weixin.qq.com/s/ZnQhUYgp7gjsoq0zGILaGg>

33 中国海警局 20251231
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202512/t20251231_2928.html

34 南部戰区微信 20251231
<https://mp.weixin.qq.com/s/r6bYeEmzGlxzC1UIZmHROA>

35 中国海警局 20251212
https://www.ccg.gov.cn/tt/202512/t20251212_2901.html

36 解放軍報 20251202
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251202/024e5f0360c695be3fe851e11c387267.pdf>

37 中国軍網 20251211

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251211/44362b99187d7fa0dacddc5e543424db.pdf>

38 米国防省 20251216

<https://www.war.gov/News/Releases/Release/Article/4361903/readout-of-december-2025-us-china-defense-policy-coordination-talks/>

39 国防部網 20251225

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16429143.html>

40 国防部網 20251206

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16425675.html>

41 解放軍報 20251210

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251210/aac11459675c13556e06496eac7c8683.pdf>

42 国防部網 20251205

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16425476.html>

43 中国軍網 20251209

http://www.81.cn/yw_208727/16426079.html

中国軍事動向月報 2025年12月

2026年1月9日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。